

B-14

調査資料 No. 61

輸送引率員調査報告

(技術移住)

昭和41年5月

海外移住事業団



國際協力事業団	
受入 月日 84. 8. 20	703
	234
音録No. 13312	EM

ま え が き

この調査報告書は、引率用務のため南米に出張した兵庫県事務所長斉藤法夫がサンパウロ市、リオ・デ・ジャネイロ市及びその周辺地区において10日間技術移住の調査にあたった結果をとりまとめたものである。技術移住関係の現地資料が少ないことから、海外移住関係者の参考になると思われるので、ここに印刷する次第である。

なお、調査時は昭和40年6月～7月であるので、インフレのためブラジルの通貨価値はその後下落していること及び調査当時はブラジルの企業は不況におそわれていたことの2点を特に念頭において読んでいただきたい。

昭和41月4月

技 術 移 住 課 長

JICA LIBRARY



1024362[4]

目 次

1. 序	1
2. 調査対象	1
3. 事業所概況	1
(1) 伯国三菱重工株式会社(C.B.C)	1
(2) ブラジル豊和工業株式会社	4
(3) ブラジル特殊陶業株式会社	5
(4) 新潟プラス株式会社	7
(5) その他の事業所	9
4. 視察会社概況一覧表	10
5. 技術移住者の現況及び労働事情	14
(1) サントス港下船の技術移住者出迎え状況	14
(2) サンパウロ州政府移民収容所概況	14
(3) 労働事情	16
6. 技術移住センター	27
(1) 建設概況	27
7. 技術移住推進方策に関する所見	27
(1) 日系進出企業の技術移住者受入に対する考え方	27
(2) 現地受入体制の強化	28
(3) オープン方式による送付について	28
(4) 技術移住者の独立援助について	29
付 録	31

ブラジル技術移住調査報告

1. 序

昭和 40 年 6 月 28 日から約 10 日間にわたり、サンパウロ市周辺地区において 6 社、リオ・デ・ジャネイロ市周辺地区において 2 社、計 8 社を訪問した。

僅か 10 指に満たぬ会社の状況から技術移住の動向を推論することは、いささか危険ではあるが、現地支部等より入手し得た資料を加味して記述することとした。

2. 調査対象

小職滞在中におけるブラジル経済界の一般的情勢は、政府のインフレ抑制政策による金融引きしめのため、デフレの様相を呈し、外国系企業においては、相当数の人員整理、集団休暇、操業短縮等を行なっている状況であった。従って現状においては外国系企業への日本人技術移住者の新規あっせんは困難と認められたので、調査対象は、主として日系進出企業にのみ、しぼることとした。

3. 事業所概況

(1) 伯國三菱重工株式会社 (C.B.C)

ア 所在地概況

C.B.C. の工場はサンパウロ市からペロ・オリゾンテ市に通ずるミナス街道の傍で中間地点、サンパウロ市から約 300 キロのミナス・ゼライス州ヴェルジニャ市は人口約 4 万人の落ちついた美しい地方小都市で町の中央に公園があり、映画館も 3 館ある。町の住民の大半が C.B.C. の従業員であり、いわば C.B.C. でもっている町ともい

える。日本人在住者はC.B.Cに勤務する者以外は1～2家族程度に過ぎない。

イ. 工場概況

(ア) 工場敷地総面積は約12万フェーベ、工場面積は製缶工場、機械工場、チューブ工場、アスファルトマシン工場計4棟約3万フェーベである。

(イ) 従業員総数約510名、うち日本人は技術移住者3名を含めて17名である。エンジニアはブラジル人1名、日本人3名(本社派遣)、日系2世3名計7名である。

(ウ) 10年以上勤務のいわゆる恒久従業員の資格を持つブラジル人は約100名近く居る。会社の負担は大きくなるが、ヴェルジニャ市のC.B.Cであるという認識を深めてもらうため、今後も一応選別の上、資格を与えて行く方針とのことであった。

(エ) 手持工事は総額約900万コント、工場生産能力の約10カ月分に当り、C.B.Cに関する限り不況の影響は殆んど認められなかった。

ウ 福利厚生

(ア) 工場敷地内に34戸の社宅があり、課長、組長及び夜間就労者を優先的に入居させている。

(イ) 医療関係は市内在住の内科医1名を指定医としており、毎週月、水午前中、工場内で診療に当たっている。その他の日は医院で直接、診療を受けることになるが、原則として診察費は個人負担なし、薬代だけ実費徴収としている。内科医だけで処置できない患者発生の場合は付近在住約60名の医師のうち、適当な医師に指定医から紹介状をもらい、医療費は会社が立替払し、本人が月賦償還という形をとっている。

エ・技術移住者の現況

移住者氏名	出身府県	職 種	入社年月	給 与	備 考
大 野 瞭	茨城県	フライス盤工	昭 40. 2	85コント	
前 田 巧	三重県	機械製図工	昭 40. 4	106コント	
長 根 政 勝	兵庫県	機械製図工	昭 40. 4	106コント	

(ア) 同社には上記3名の移住者が就労中であったが何れも着伯後日が浅く、現地事情にもなれておらず、会社側の待遇について特に不平不満はないとのことであった。

(イ) 彼等は会社が70コントの家賃で借りている5部屋の独立家屋に各自一部屋ずつ占有して住んでいる。寮費は個人負担なし。

(ウ) 食事は会社雇用のブラジル人家政婦が取りしきり、食費のみ3人で分担している。月平均1人当たり約35コントの負担という。

(エ) 語学については日本人の少ないせいもあり相当不便を感じていたが、会社側が移住者3名を対象に専任の女教師1名を配属し、終業後1時間、語学講習を実施していた。

(オ) 技術移住者に関する古屋工場長談、次のとおり

テストケースとして日本から3名の技術移住者を受入れたが、何れも技術的にも人物的にもよい青年達ばかりで、ブラジル人従業員の間でも評判がよい。

現在彼等3名の給与はかなり低いが、語学を或程度習得した後、昇給を考慮したい。

彼等に能力と努力する意志があるならば、将来本社派遣職員に代る管理的地位につくことも可能である。

オ・今後の技術移住者受入れについて(古屋工場長談)

(ア) 日本人技術移住者の評判はよいが、現在、不況の最中であり、グァ

ルジンニャ市にもかなりの失業者がいるので、更に日本から技術移住者を受入れることは、もう少し景気が好転するまで情勢待ちとしたい。

(イ) 三菱としては、ここをブラジル進出の足がかりとして将来リオ・サンパウロへも進出したい意向であるので、時期を見て日本からの呼寄せを考慮したい。

(ウ) 日本から既に移住して来ている技術者については優秀な者であれば、できるだけ採用したい。

(エ) 私見ではあるが、将来日本の工業高校卒程度の者を呼寄せ社内訓練所において養成することも考えている。

(2) ブラジル豊和工業株式会社

ア. 工場概況

(ア) 従業員 800 名のうち日系人は 35 %、うち 1 世は 150 名程度である。

(イ) 従業員の平均年齢は 28 才、平均賃金は 120 コント、平均勤続年数は 3.6 年、最長 7 年の者が 16 名いる。

(ウ) 生産能力は自動織機月産 150 台、精紡機は月産 6 台位である。

(エ) ノルデステ地方開発計画の一環として綿業再装備が「進歩のための同盟」資金により実施されている由であったが、訪問時において製品倉庫に自動織機のかかなりの滞貨が認められた。

イ. 労働条件

労働時間は週 5 日制(土、日休み)、1 週 48 時間労働、勤務時間は 7 時から 18 時 5 分まで、休憩時間はうち 1 時間である。

ウ. 福利厚生

(ア) 約 40 名収容可能な独身者用寮及び世帯者用寮 5 戸あり、

(イ) 昼食は工場給食として会社側が食費の 50 %を補助している。

(ウ) 通勤者には交通費 3 分の 2 を会社が補助しており、また寮及び駅まで通勤バスを運行している。

(エ) 社内診療所あり

(オ) 野球場、フットボール場もあり、社内スポーツクラブも相当活躍しているとのことであった。野球部員 50 名、フットボール部員 30 名、その他室内ゲーム、釣、写真、ハイキング等も行なっている。

エ. 技術移住者の現況

(ア) 第 1 回受入者 35 名のうち現在まで引き続き在勤中の者は 9 名に過ぎない。

(イ) 現在就労中の技術移住者の給与は最低 100 コント、最高 250 コント位である。

(ウ) 独身寮に殆んど入居しているが、寮生活に要する経費は寮費 10 コント、食費 25~30 コント程度である。

(エ) モジダスクルーゼス市内においては 40 コント位で 1 軒家が借りられるとのことであった。

オ. 今後の技術移住者受入について(棚橋工場長談)

(ア) 織機、梳棉機、精紡機等の紡績機械修理組立工 4~5 名程度を早急に受入れたい。

(イ) 技術移住者の技能、人物については名古屋本社で選考しており問題は無いが、採用決定の上はできるだけ速かに渡航するよう指導願いたい。

(3) ブラジル特殊陶業株式会社(N.G.K.)

ア. 工場概況

(ア) 工場はサンパウロ市から約 50 キロのモジダスクルーゼス市内にあり、通勤にも極めて便利な場所と認められた。

(イ) 従業員は約 290 名、構成は日本人 1 世 20 %、日系 2 世 30 %、

ブラジル人 50 %で他の工場に比し日系人が極めて多い。

(ウ) 不況のため特にタイヤについては小売店にかなりのストックがあり、国内消費は当分伸長が期待薄なので輸出を伸ばして行く方針をとっている。現在アルゼンチンにプラグの焼物のみ輸出している。

(エ) 製品のコストダウンをはかるため、人員整理を計画しており、7～8月中に 40 名、年末には 50 名程度の整理を行なう予定である。

(オ) 人員整理による生産減を防止するため、機械の配置を再検討する等、小さな改善の積み重ねにより生産の合理化をはかっていた。

イ、福利厚生 特にみるべきものなし

ウ、技術移住者の現況

移住者氏名	出身府県	職 種	入社年月	給 与	備 考
真 田 昌 郎	茨城県	機械製図工	昭 40. 4	100コト	

(ア) 同社に就労中の技術移住者は上記の 1 名のみであり、現在もう 1 名呼寄手続中であった。

(イ) 彼は友人と共同で市内に家賃 45 コトで 1 軒家を借り、食事は自炊しているとのことであった。食費は月平均 1 人当り 15~20 コト程度

(ウ) 言葉の面については前述のように日本人が多いため、社内でも殆んど日本語で用が足り、あまり不便は感じていない由であった。

エ、今後の技術移住者受入れについて(小林工場長談)

(ア) 前述のように年末までに相当数の人員整理を予定しているので、現在直ちに日本人技術者の新規受入れは困難である。

(イ) しかし、昭和 41 年度から本社出向社員を減らして行く方針であるので、その穴うめとなるような優秀な永住の決意を持った人員の補充を考えている。

(4) 新潟プラス株式会社

ア. 所在地概況

リオデジャネイロ市の対岸ニテロイ市から約 20km 離れたアルカンタラ市郊外に工場があり、その隣接地には山県建設アルカンタラ採石工場がある。

工場周辺地区は閑静で環境は極めて良好であった。

イ. 会社の沿革

(ア) 1957年2月、日本の新潟鉄工と現地企業である山県建設との合弁で資本金 1,000 コントの新潟プラス有限会社として発足した。

(イ) 1961年2月、増資を行ない 114,000 コントの資本金を有する株式会社へ改組した。

(ウ) 資産再評価により現在の資本金は 586,000 コントになっている。

ウ. 工場概況

(ア) 工場敷地は 3 万フェーベ、工場は機械工場、組立工場の 2 棟、生産品目は主としてディーゼルエンジン部品の製作修理及び船舶構造物である。

(イ) 従業員は約 90 名、うち日本人は本社派遣 5 名、日系 2 世 5 名、現地採用 2 名、計 12 名であり、技術移住者 1 名は一両日中に着伯の予定であった。

(ウ) 年間売上高は約 70 万コントス、純利益はそのうち約 10 % 程度である。

(エ) 現在、リオ州カシヌー(ニテロイ側)に小型船舶工場を建設中で 1966 年には操業開始の予定である。1,000 トン程度までの漁船建造を予定しているが、当初の間、当分は修理が主となるであろう。

エ. 福利厚生

(ア) アルカンタラ市内に独身寮 2 軒あり、収容人員 10 名程度、寮費

は食費共で約 60 コント，土，日の会社休日には寮で3食完全給食を行なっている。

(イ) 勤務日には昼食は工場給食を行なっており，個人負担は7~10 コント程度。

(ウ) 医療費については特に規程はないが，成績，人物共に優秀な者に対して全額会社で負担した例がある。

(エ) 家屋建築費，自動車購入費等の会社融資を社員に対して行なった例があるが，医療費と同様，融資規程といったものはない。

(オ) 医療費会社負担及びその他の会社融資は従業員全員に適用されるものではなく，人物次第によって会社側がケースバイケースで決定しているとのことであった。

(カ) 今後新しい技術移住者受入れの場合，着伯後約6カ月間は寮に収容し，その後はできるだけ自立せしめる方針を取りたい由である。

オ. 今後の技術移住者受入について(魚谷渉重役談)

(ア) 昭和41年には小型船舶建設工場の操業開始を予定しており，更に現在の工場も拡張する計画であるので下記職種の技能者受入を考慮している。

職 種	人 数	資 格	そ の 他
電 気 溶 接 工	1~2 名	1 級免許を有する者	何れも単なる技能者ではなく，将来，管理的地位について十分やって行ける能力を持った者であること。
機 械 工・板 金 工	2~3 名	工大卒または工高卒で経験のある者	
船 舶 繊 装 工	数 名	電気繊装，管繊装等	
事務及経理担当者	2~3 名	大学，関係学部卒業生	

(イ) 新潟プラスとしては本社派遣職員に代る技能者の育成を真剣に考えており，今後受入れる者については当社の社風になじみ，共に伸びて行こうという考え方を持った人物を希望する。

(ウ) 現在、日本人技術移住者を現地採用する場合、勤務先を転々と変る者は排除するという方針をとっており、3度以上転職の経験を有する者は採用していない。

(5) その他の事業所

次頁以下「視察会社概況一覧表」参照されたい。

4. 視察会社概況一覧表

区分	会社名	伯國三菱重工株式会社(O.B.C)	ブラジル豊和工業株式会社
所在地		ブラジル国ミナス・ジェライス州 ヴァルジニャ市	ブラジル国サンパウロ州 モジダスクルーゼス市
創立年月日		1963年6月	1956年7月3日
資本金及 資本構成		1,180,000 コント 三菱100%	1,650,000 コント 豊和70%, 事業団13%, 東洋紡他2社17%
生産品目		ボイラ, 建設用機械, 化工機, レイ モンドミル	自動織機, 精紡機, 撚糸機, 梳棉機, ドビー装置他
年間売上高			
従業員	総数	520名	800名
	日系人	17名	280名
	移住者	3名	名
就労条件	労働時間	週6日制48時間労働	週5日制48時間労働
	交替制	なし	なし
	試用期間	3ヵ月	6ヵ月
	有給休暇	年20日	年20日
福利厚生	寮及社宅	移住者用独身寮あり(家賃無料) 家政婦1名配属 社宅34軒(課長, 組長クラス用)	独身寮, 寮費10コント食費23コン ト位 世帯者用5戸
	医 療	市内在住内科医1名を指定医とし, 医療費は会社立替払本人から月賦徴 収歯科医も指定する予定	社内診療所あり
生	その他	移住者に対する語学講習を実施して いる。	野球場, フットボール場, 卓球場あり, 昼食 会社半額補助により給食(約 15コント), 交通費2/3補助
今後の技術移 住者受入可否		現在日本からの直接受入れは考えて いない。 将来事業拡張の際は考慮したい。 既に来伯している技術移住者につ いては選考の上採用してもよい。 将来, 日本の工業高校卒業程度の若い 優秀な者を受入れ, 現地で訓練する 養成工訓練所の開設も試案として考 慮している。	織機, 精紡機, 梳棉機等紡績機械の修 理組立工4~5名程度を早急に受入希 望。
備 考			

区分	会社名	ブラジル特殊陶業株式会社(N.G.K)	児玉機械製作所
所在地		ブラジル国サンパウロ州 モジタスクルーゼス市	ブラジル国サンパウロ州 サントアンドレー市
創立年月日		1959年8月1日	
資本金及 資本構成		210,000コント 日本特殊陶業K.K. 100%	100,000コント
生産品目		自動ガソリンエンジン用点火プラグ 建築用モザイクタイル	洗染業務用機械
年間売上高			
従業員	総数	290名	50名
	日系人	150名	10名
	移住者	1名(呼寄手続中1名)	3名
就労条件	労働時間	週6日制47時間労働	
	交替制	1部あり	
	試用期間	2カ月	
	有給休暇	年20日	
福利厚生	寮及社宅	なし	独身寮あり(寮費無料, 食費30コ ント)
	医療	市内2病院を会社指定医として指定 している。	
	その他		
今後の技術移 住者受入可否		7~8月に40名, 12月までに 50名程度人員整理の予定であるの で, 受入れは困難	当分技術移住者受入希望なし
備考		機械配置の合理化をはかり, 人員減 少しても生産のおちないようにして いる。	

区分	会社名	新潟プラス株式会社	石川島・ド・ブラジル造船所
所在地		ブラジル国リオデジャネイロ州	ブラジル国リオデジャネイロ市
創立年月日		1957年2月1日	1959年1月2日
資本金及 資本構成		586,000コント 新潟鉄工(日)50%, 山県建設(伯)50%	15,849,283コント 石川島播磨91%, リオ港湾管理局地9%
生産品目		ディーゼルエンジン製作修理 船舶構造物(バッチ, パイプ, タンク等) 小型船舶建造修理(来年度から)	各種型式船舶建造, 修理及サルベージ 船用ディーゼル主補機の製造及修理。 タンク, 高圧容機, 搬重機, 鉄骨橋梁等
年間売上高		700,000コント	
従業員	総数	90名	2,000名
	日系人	13名	320名
	移住者	1名	70名
就労条件	労働時間	週5日制	週5日間40時間労働
	交替制	なし	
	試用期間	なし	
	有給休暇		
福利厚生	寮及社宅	独身寮あり(寮費, 食費とも60コント)	
	医療	療養中給料全額払, 治療費全額会社で負担した例あるも, 特に規程は設けていない。	
	その他	家屋建築費, 自動車購入費等を会社から融資した例あり	
今後の技術移住者受入可否		電気溶接工(1級)1~2名 機械工板金工 2~3名 船舶積装関係技能者 数名 事務経理担当者(大学卒)2~3名 単なる技能者でなく, 社風になじみ 会社の発展に努め, 将来管理職となる ような能力を持った人が望ましい。	
備考			

区分	会社名	佐渡金電球工業株式会社	パペロック製紙商工株式会社
所在地		ブラジル国サンパウロ州 ボンセッソ	ブラジル国サンパウロ州 サンミゲル、パウリスタ市
創立年月日		1958年9月	1963年6月5日
資本金及 資本構成		50,000コント	250,000コント
生産品目		クリスマス用電球 工場発電用特殊電球	段ボール用紙(月産200屯)
年間売上高			300,000コント
従業員	総 数	150名	40名
	日 系 人	100名	
	移住者		
			役員社長 田中 義数 副社長 宮本 邦弘 専務 森 清 工場敷地面積 30,000平方メートル 工場 建坪 2,000平方メートル 工場 設備 巾1メートル30センチの段ボール内装紙すき機とその設備一切 同社はダンボール箱製造を計画しており、日本企業との提携を希望している。 増設希望 現在生産されている段ボール紙を主軸に加工してダンボール箱各種の製箱機及びそれに伴う諸機械(印刷機等) 提携希望理由 ブラジルにおけるダンボール箱の需要は近來とみに急増しているにかかわらず製箱業界はまことに幼稚、非能率的である。従って日本の近代化された機械と技術の提携が出来れば、業績は著しいものがあると思う。

5. 技術移住者の現況及び労働事情

(1) サントス港下船の技術移住者出迎え状況

- ア. サンパウロ州政府から支部への申入れにより、昭和40年1月からサントス港下船の事業団扱い技術移住者は上陸後サンパウロ州政府移民収容所に収容され、引受会社は同所に引取りに出向くことになっている。
- イ. 収容期間は原則として1カ月、その間、宿泊費、食費、寝具貸与、洗濯費等生活費は一切無料である。収容期間内に同所で労働手帳、鑑識手帳の取得手続きを行なう。
- ウ. 支部から下船技術移住者に関する情報を収容所に報告し、収容所側はそれに基づいて移住船入港当日到着人数に応じ、出迎えの係官と共にバス、トラック等をサントス港に派遣している。
- エ. 移民収容所側からの要求により、出迎え係官の通訳としてサンパウロ支部籍方職員が同行している。
- オ. 移住者達は税関検査終了後、直ちにバスに乗り、荷物はトラックに乗せ、収容所に収容される。小職引卒の技術移住者達の税関検査終了は午後12時近くの深夜になったにもかかわらず、収容所出迎え係官はそれまで待機し、終了後直ちにサンパウロへ出発していた。
- カ. 農業移住者は上記収容所には入所できない。
- キ. これによりサントス港下船の技術移住者は着伯後1カ月間の生活は一応保証されている形となり極めて好ましい状況である。

(2) サンパウロ州政府移民収容所概況

ア. 収容所概況

- (ア) 収容所はサンパウロ市内モッカ区にあり敷地面積15,000フェーベ(100m×150m)。
- (イ) 従来、主としてノルデステ地方等からの国内移民の収容所とし

て利用されていたが、最近国外からの技術移住者増加に伴ない、同技術移住者収容施設を所内に新設し、本年から日本人技術移住者も収容している。

(ウ) 訪問時現在、国外技術移住者の収容可能人員は 50 名程度であったが、同収容所長談によれば、更に新施設を建設中であり、約 1 カ月以内には完成する見込とのことであった。

(エ) 新施設が完成すれば 150 名～200 名程度収容可能となる。ベット等什器類はすべて新品を入れ家族移住者の場合、家族単位の部屋を提供することとなる。

(オ) 収容期間は 1 カ月とし、それを越える場合は原則として退所してもらうこととなる。

(カ) 収容期間 1 カ月間は宿泊費、食費、寝具貸付、洗濯等一切無料である。

(キ) 収容期間内に労働手帳、鑑識手帳の取得手続きを行なう。労働手帳は約 1 週間、鑑識手帳は 40 日位で取得出来る。手数料は無料、ただし公証料はん訳料等実費 1 コント位を要する。

(注) 一般個人が町の業者等に取得手続きを依頼した場合約 20 コント程度の手数料を要するとのことであった。

(ク) 所内に技術者就職あっせん部があり、2 名の職員が担当している。日本人技術者のあっせん実績は今までないが、今後このあっせん部も積極的に利用してほしいとの所長談であった。

イ、収容所付属技術訓練所概況

(ア) 収容所に程近く付属の技術訓練所がある。建設費は州政府と IOBM が半々の割合で負担し設立された。

(イ) 同所は SENAI の協力による州政府の技術学校として旋盤工 18 名 仕上工 18 名、計 36 名の養成を行なっている。

(ウ) 訓練期間はブラジル人6カ月、外国人3カ月となっているが、ブラジル人の場合でも他で6カ月以上の訓練を受けた経験のある者の訓練期間は3カ月となっている。

(エ) ICEM 関係移住者の訓練生については、ICEM から学校に対し1人当月65ドルの補助金が交付されているとのことであった。

(オ) 同訓練所卒業証明書取得者は当局が責任をもって就職をあっせんしている由である。

(カ) 同訓練所への日本人移住者入所可否について所長に質問したところ「一応日本政府がICEM の了解を取りつけ、訓練生1人月65ドルの補助金を負担してもらえれば、恐らく入所可能であると思う。」との回答を得た。

(3) 労働事情

日系企業における労働事情の傾向の一端をみるため、現地において入手し得た資料に基づき、日系企業7、日系進出企業11、計18事業所について一覧表を作成してみた。勿論、この表からすべての日系企業の状況を云々することは出来ないが、一応の参考資料としてみられたい。

ア. 勤務時間

(ア) 週間労働日数

別表1のごとく6日制と5日制が半々の形となっている。外国系企業

	日系現地企業	日系進出企業	計
週6日制	3	6	9
週5日制	4	5	9
計	7	11	18

においては、その殆んどが週5日制をとっているが、日系企業においても、かなりの事業所が週5日制をとっていると認められる。

(イ) 週間労働時間

別表2のごとく大部分の事業所が週48時間制をとっている。週

5日48時間労働の場合1日の就労時間は9~10時間となる。

イ. 試用期間

(ア) 事業所側が技術者の人物、技能を視察するため、一般的に試用期間を設けることがブラジルの労働慣習となっている。別表3のごとく、試用期間のない事業所も一部あるが、3カ月の事業所が最も多い。

(イ) なかには新潟ブラスのごとく試用期間を設けることはブラジル労働法に違反するという解釈をとり試用期間を設けていない事業所もあった。

ウ. 宿舍(寮)の設備

(ア) 最近ブラジルにおいても人口の都市集中化が目立ち、サンパウロ市、リオデジ

(別表2)

	日系現地企業	日系進出企業	計
48時間	7	7	14
47時間		1	1
44時間		1	1
42時間		1	1
40時間		1	1
計	7	11	18

(別表3)

期間	日系現地企業	日系進出企業	計
なし	1	2	3
2カ月		1	1
3カ月	4	4	8
6カ月		1	1
不明	2	3	5
計	7	11	18

(別表4) 独身寮の有無

	日系現地企業	日系進出企業	計
あり	4	6	10
なし	3	3	6
不明		2	2
計	7	11	18

(別表4') 世帯者用寮の有無

あり	1	5	6
なし	6	4	10
不明		2	2
計	7	11	18

ナナイロ市等技術移住者の多い大都市は相当な住宅難の様相を呈している。移住者の生活に特に関係の深い各企業の寮設備についてみると別表4及び4'のごとく独身者を収容する寮は比較的多いが世帯者用寮を有する事業所は進出大企業以外は殆んどないといえる。

(イ) 従って単身移住者の場合、比較的寮施設を利用しやすいが、家族移住者の場合施設が少なく、あっても満員という状態が多いため、社員寮を利用することは困難である。

(ウ) 借家を利用する場合、保証人を要するが、大体において会社が保証人となっている形が多い。また場合によっては会社発行の身分証明書提示により保証人なしで借りられることもあるということであった。

エ. 給 与 関 係

(ア) 最 低 賃 金

労働の報酬として当然支払いを受ける最低賃金についてブラジルでは1936年から最低賃金制を実施してきているが、それ以来、インフ

(別表5)

サンパウロ市における最低賃金上昇率と生活指数上昇率の対比				
年	最低賃金額	最低賃金上昇率	生活費上昇指数	備 考
1951	1,190	100	100	1.最低賃金額の単位はクルゼイロ 2.最低賃金額の改訂は51~61年までは年末、63年以降は年当初に実施されている。
54	2,300	194	190	
56	3,700	311	284	
58	5,900	495	396	
60	9,440	794	747	
61	13,210	1,110	1,072	
62			1,734	
63	21,000	1,765	3,130	
64	42,000	3,529	5,809	
65	66,000	5,546		

レによる生活費の高騰に伴ない、最低賃金は再々改訂されてきている。参考までにサンパウロ市における過去 15 年の最低賃金上昇率と生活費上昇率を対比してみると別表 5 のごとく、1951 年における最低賃金指数を 100 とした場合、1965 年 2 月改訂の最低賃金指数は 5,546 となり、同じく 1951 年における生活費指数を 100 とすると、1964 年末の生活費指数は 5,809 であり、ほぼ等しい数値を示している。これからみても、大体生活費の上昇につれて最低賃金が上げられてきていることが分かる。

(イ) 技術移住者の平均賃金

- a. 昭和 40 年 1 月、サンパウロ支部において実施した来伯後 3 年未満の技術移住者を主体とするアンケート調査によれば、彼等の給与は平均 120 コントから 200 コント位までが一番多い結果が出ている。
- b. 豊和工業における技術移住者の給与も殆んどこの線であり、小職滞伯中面接した技術移住者のうち 100 コント未満は来伯後日の浅い C.B.C 勤務者 1 名のみであった。
- c. 昭和 35~36 年に石川島ブラジル造船所技術移住者として渡伯し、現在も同造船所に就労している兵庫県出身移住者約 10 名の平均給与は 300 コント以上となっていた。
- d. これらのことからみて、ブラジルにおける給与体系は職務給制度を取っているとはいえ、一応、水準並の技能を持った移住者は滞伯後 2~3 年位で 200 コント程度の線には到達出来るものと思われる。

オ. 技術移住者の生活

技術移住者の生活については既に会社概況の中で一部記述済みであるが、総括的な面について一部ふれてみたい。

(ア) 住宅について

リオデジャネイロ市の中心部からバスで約1時間位の地点で、居間、寝室、食堂、台所、浴室各1のアパートを3年位前から借りている移住者の現在の家賃は30コント、同程度の規模のアパートを2年前から借りている者は70コントの家賃を支払っていた。ブラジルでも家賃統制令により、古い入居者の家賃を上げることは仲々難しいが、新しい入居者の場合、現在、同地点で同程度のアパートを借り入れるとすれば120~150コント位を要するとのことであつた。また中心街に近付けばそれだけ家賃が上って行き、中心部では恐らく300コント以下では新規の借入れは困難ではないかとのことであつた。

サンパウロ市周辺地区モジ市等では40~50コント程度で借家が可能であるが、サンパウロ市中心部においては新規の住宅借入れは200~300コント程度を要するとのことであつた。

インフレの進行と人口都市集中化に伴なう住宅難のため、都市部における住居費は年々幾何級数的に上昇しており、住宅問題は今後の技術移住者にとって最も困る問題といえよう。

(イ) 生活費について

技術移住者の生活費を考察するため、技術移住に最も関連の深いサンパウロ市における物価を市内商店、フェイラ等において調査してきたので、参考までに次頁以下に掲げる。

(参考)

ブラジル国サンパウロ市における物価表

昭和40年6月下旬調査

為替自由相場 1米ドル = 1,860クルゼイロ

(1クルゼイロ = 20.銭)

区分	品名	単位	価格(クルゼイロ)	備考
◎食料品	米	1キロ	250	
	フェジョン豆	1キロ	250	
	ジャガイモ	1キロ	250	
	もやし	1袋	200	
	トマト	1キロ	140~230	
	キャベツ	大1個	300	
	白菜	大1個	250	
	キュウリ	1本	100	
	なす	大3個	200	
	ピーマン	大4個	200	
	大根	3本	200	
	ねぎ	1束	100	
	玉ねぎ	1キロ	200~230	
	鶏卵	1ダース	650~740	
	肉	1キロ	1,200~1,600	下~中級
	いわし	1キロ	300~400	
	バナナ	1ダース	100~150	
	リンゴ	1個	150	
	ラランジャ	1ダース	300	ミカン大
	かんぴょう	5本	320	
豆腐	2丁	350		
油揚	1枚	400		

区 分	品 名	単 位	価 格(ク ル ビ イ ロ)	備 考
◎食 料 品	ふ	1 袋	250	
	かまぼこ	1 枚	400	
	ちくわ	1 本	180	
	そば	800g	610	
	うどん	800g	610	
	すし	1 人前	1,200~	
	田舎まんじゅう	1 キロ	1,500~	
◎調 味 料	醬 油	4合ビン	530	
	塩	1キロ	240	
	砂 糖	1キロ	315	
	食 用 油	1リットル	850	落花生油
	ケチャップ	1ビン	550	
	味 の 素	1 缶	770	
◎嗜 好 品	煙 草	20本人1箱	400	平均
	コカコーラ	1 本	120	
	ビール	1 本	300	
	コニャック	1 本	2,000~	ブラジル製
	ウィスキー	1 本	8,000~	"
◎衣 類 日 用 品	背広(上・下)	1 着	60,000~	
	テロンワイシャツ	1 枚	15,000~	
	木綿ワイシャツ	1 枚	5,000~17,000	
	スポーツ・シャツ	1 枚	10,000~	
	ポロセーター	1 枚	12,000~20,000	
	セーター	1 枚	30,000~	
	長袖シャツ	1 枚	2,000	

区 分	品 名	単 位	価 格 (ク ル ゼ イ ロ)	備 考
◎衣 類 日 用 品	ランニングシャツ	1 枚	1,200	ナイロン製 10,000 程度 のもの多し
	パ ン ツ	1 枚	1,000	
	ハ ン カ チ	1 枚	500	
	ネ ク タイ	1 本	2,000~6,000	
	靴 下	1 足	1,500	
	靴	1 足	7,000~40,000	
	皮 バ ン ド	1 本	2,000~	
	毛 皮	シングル	20,000~	
	バスタオル大	1 枚	5,000~	
	バスタオル小	1 枚	2,000~	
雨傘(女性用)	折たたみ式1本	7,000~		
◎家 具 家 庭 用 品	ダブルベット	1 台	380,000	上級品
	椅 子	1 脚	7,000	
	時 計	1 個	68,000	セイコー・ス ポーツマチック
	鍋 セ ッ ト	鍋・ヤカン・フライパン等	20,000~30,000	ステンレス製
	フォーク・ナイフ・スプーン	各 1 個	400~2,000	
◎電 気 製 品	テ レ ビ	21インチ1台	550,000	ソニー ポータブル 211
	電気冷蔵庫	1 台	268,000	
	電気洗濯機	1 台	350,000	
	テーブ・レコーダー	1 台	480,000	
	トランジスター ラ ジ オ	1 台	57,000~115,000	
	ミ キ サ ー	1 台	30,000~50,000	
	電気アイロン	1 台	20,000~40,000	
	ミ シ ン	1 台	200,000	
	懐 中 電 灯	1 個	2,000	
	電 球	150ワット1個	1,200	

区 分	品 名	単 位	価格(クルセイロ)	備 考
◎電 気 製 品	電 球	100ワット1個	800	
	電 池	1 個	200~320	
	ガスレンジ	1 台	50,000	
◎化 粧 品	石 鹼	1 個	180	現 地 製 極 め て 質 悪 し
	歯 磨 剤	チューブ入1本	280	
	バイタリス(整髪)	大ビン1本	1,100	
	ボマート(日本製)	100円程度のもの1	4,800	
◎新 聞 ・ 雑 誌	邦 字 新 聞	1 部	120	
	現 地 新 聞	1 部	120	
	現 地 週 刊 誌	1 冊	400~500	
	辞書(日本製)	和 葡 1冊	20,000	
	" "	葡 和 1冊	10,000	
日本の雑誌	1 冊	日本定価の約15倍		
◎そ の 他	散 髪 代		400~700	
	洗 濯 代	ワイシャツ1枚	350	
	映 画 代	平 均	700	
	写 真 現 像 代	1 本	400	
	写 真 引 伸 代	名刺型1枚	100~	
	市 バ ス 代		100	
	市 内 電 車 賃		70	
	郵 便 代 (日本まで)	封書5gまで	245	
	マ ッ チ	小箱1個	25	
	ノ ー ト	50頁1冊	240	

サンパウロ市内において日本食は極めて容易にとれる。また日本食材料も容易に入手出来るがかなり高価である。

リオデジャネイロ市においても日本食材料は入手出来るがサンパウロ型が多いため、値段はサンパウロに比較してかなり高いとのことであった。

リオ市において家族4人、朝食は日本食、昼夜食はブラジル食をとっている技術移住者家族の場合、食費は1カ月100~120 コント程度を要するとのことであった。

日本製の葡語辞書は現地では極めて高いので、渡航前に日本で必ず購入すべきである。

カ. 技術移住者の転社について

(ア) 転社と言葉の関係

ブラジルにおける給与体系が職務給制度をとっている関係上、技術移住者がより高い給与、より良い条件を求めて流動することは当然ではあるが、言葉の習得が不十分のまま転社した場合、総体的に結果はよくない。

いままでも再々いわれてきていることではあるが、技術移住者の場合ブラジル語を完全に習得した後、始めて自己の持つ技能を100%発揮出来るのであるから着伯後の第1の目標はすべて語学の習得に集中すべきであろう。

一例として昭和36年渡伯した技術移住者が言葉の習得を第1の目標として最初から日本人のいないペンソンに止宿して努力を重ね、3年間で完全にブラジル語をマスターし、その後自己の技能に合った会社に転職し、現在550コントの給料を得ている者がいた。

自己の技能を過信し、また、成功を焦せるあまり渡伯早々の技術移住者が、他社の待遇を伝聞して動揺することのないよう、渡航前に十

分指導すべきである。

(イ) 転社に伴う前歴調査について

ブラジルにおける工業技術者の転職は自由ではあるが、大体の事業所においては技能者の採用前に本人の前歴調査を実施しているとのことである。

従って会社側に秘して在職のまま転社を計画していても、転社予定会社から在職中の会社に対して照会があるため、本人が申し出る前に会社側に知られてしまっているという場合が多い。

また、前歴調査により前就労先における勤務状況が悪いということが判明した場合、不採用になることもあるので、例え転社を決意していても最後まで真面目に「立つ鳥、跡を濁さず」の心境で就労すべきである。

参考までに伯国三菱重工(O.B.O)にて入手した前歴調査書写を添付する。



BOLETIM DE INFORMAÇÕES

Ref. n.º fma/153/4051 Data 2 / 6 / 19 65

INFORMAÇÕES SÓBRE:

Cargo

Período de trabalho de / / 19..... até / / 19.....

Como se comportava em serviço?

É competente?

Esforçado?

Obediente? Assíduo?

É honesto? Pontual?

É suspeito de ter algum mau costume?

Teve responsabilidade direta sobre valores?

OBSERVAÇÕES:

Data / / 19.....

Assinatura e Carimbo da firma inf.

(那) 調查書 号



São Paulo, 2 de Junho de 1965

ESTRADA DE ITÚ, 7.618 (OSASCO)
CAIXA POSTAL N.º 5.526
SÃO PAULO

A

COMPANHIA BRASILEIRA DE CADEIRAS.

Prezado(s) Senhor(es)

Pela presents, permitimo-nos solicitar a V(s) S(s) a especial gentileza de nos fornecer(em), sem qualquer responsabilidade de sua parte e para nosso uso exclusivo, informações que possuir(em) sobre a idoneidade moral e profissional do Snr.

Procurando sempre fazer a possível seleção de nossos Colaboradores, emprestamos grande importância às informações que nos forem prestadas, motivo pelo qual pedimos uma franca resposta, ficando previamente esclarecido que faremos uso confidencial e reservado de todos os dados que tiverem a fineza de nos enviar.

Apresentando-lhe(s) antecipadamente nossos agradecimentos, valemo-nos da oportunidade para ofertar-lhes os nossos préstimos em situações idênticas, firmamo-nos,

Atenciosamente,

Sec. de Pessoal

Anexo:

1 envelope selado

fma/.

前 歴 調 査 書 (訳)

サンパウロ 1965年6月2日

会社御中

下記の者の就労態度および思想関係について調査を依頼することをお願いいたします。

我々の共働者達の選考をするにあたっては、調査による回答が大きな重要性をもちます。

御協力に対し感謝致します。

調 査 表

Ref. no.

日付 1965年6月2日

名 前 についての調査

職業 (職種)

就勤期間 年月日 ~ 年月日

就労中はどのような態度でした?

適任でしたか?

健康は?

従順? 勤勉?

正直? 几帳面でしたか?

なにかくせ (習慣) について疑わしいことはありませんか?

仕事に対して責任がありましたか?

注意事項:

日付 1965年 月 日

会社のサインおよび印

6. 技術移住センター

(1) 建設概況

リオデジャネイロ、サンパウロ間を結ぶヅットラ街道沿い、サンパウロ市中心部から約10kmの地点に技術移住センターが建設中であった。

完成時の規模は本館（事務所、講堂）1棟、宿舍2棟（単身用、世帯者用各1棟）、食堂2棟、車庫1棟、計6棟となり、単身技術移住者20名、世帯者5家族を収容出来ることになる。

小職見学时において給水塔及び、本館、宿舍の建物がほぼ完成し、建物の内部工事に取りかかっていた。昭和41年1月から業務開始を目標に年内完成の予定で工事を進めているとのことであった。

7. 技術移住推進方策に関する所見

(1) 日系進出企業の技術移住者受入に対する考え方

ア．僅か数社の日系進出企業の幹部と面談したに過ぎなかったが、技術移住者受入れに対する考え方としては、単なる技能者として受入れられるのではなく、技能プラス将来管理的立場に立って十分やれる能力を持った人材を受入れようとする考え方がかなり強いように感じられた。

これは日系進出企業そのものの歴史が比較的新しく、主要業務は主として本社派遣職員によって行なわれている現状であり、派遣職員は交替が多く不経済であるため、これに代り得る永住の決意を持った人材を育成しようという考え方から来ているものと思われる。

勿論、日系進出企業の数には限定されており、今後、国内における移住希望者の指導、選考方針に大きな影響を及ぼすものではないが、進出企業へあっせんするに際し、一応考慮すべき問題であろう。

イ。また、一部企業に日本人技術移住者の現地採用を希望する声があったが、企業自体として、来伯するまで4～6カ月位かかる日本在住の技術移住希望者を書類選考により採用するよりも、既に来伯している技術者を面接の上入社せしめる方が得策と考えるのは当然であり、事業団としても、これに応える態勢を検討する必要があるのではなかろうか。

(2) 現地受入体制の強化

ア。現地サンパウロ支部のあっせん体制拡充については、既に他の視察者諸氏が再三にわたり申し述べているので詳述は避けるが、特に支部内において人的、予算的裏付けによる機構の拡充整備をはかり早急にあっせん体制を強化する必要があると考える。

イ。昭和40年度から現地における企業経営者の技術移住推進協議会経費も予算化されているので、求人確保、求職者のあっせんにかんがりの実効が期待出来る。さらにカトリック移住協議会、商工会議所関係の現地あっせん機関、または州政府移民収容所のあっせん部等、現地関係機関との連繫を保ち技術移住者あっせん体制も出来るだけ間口を拡げる必要があると思う。

(3) オープン方式による送出について

ア。オープン方式による技術移住者送出問題を取り上げるのは時期尚早の感がないでもないが、MOP、MOSE計画の実施、ブラジルの労働事情（試用期間、給与体系等）、更には現地企業の考え方、受入施設の整備（サンパウロ州政府移民収容所、技術移住センター等）、技術移住者の定着率等からみて、一応、前向きな姿勢で検討すべき段階に來ていると認めてもよいのではないかと考える。

イ。勿論、すべての技術移住者を直ちにオープン方式で送出するということは無謀であり、また、取るべき方策ではないが、第1段階として

次の方法が考えられる。

(ア) 現地支部において、あっせん体制の拡充をはかるとともに、技術者の需要状況を検討して、オープン方式によって受入れても、あっせん可能と思われる職種（必要あれば人数）を限定する。

(イ) 本部においては重点府県を設定して、移住希望者にオープン方式の意味を周知徹底せしめると共に、人物、技能について厳重な選考を実施する。

併せて国内講習を十分に実施する。

(ウ) 現地到着後は州政府移民収容所、技術移住センター等の施設をフルに活用し、あっせん成立まで2カ月程度の生活費は移住者個人にあまり負担のかからぬように配慮すると共に、その間、語学を主体とした現地講習を実施する。

(エ) 現地講習期間内に現地支部において就職あっせんを行なう。

(4) 技術移住者の独立援助について

昭和40年1月サンパウロ支部において実施したアンケート調査によれば、調査対象となった技術移住者のうち約70%近くの者が何等かの形で独立を考えているという結果が出ているそうである。

彼等の大半の目標が独立にあり、またブラジル工業界の現状から見て、独立自営の可能性が日本より多いとするならば、確たる計画の下に独立しようとする移住者に対して、当然事業団としても積極的な援助を考えるべきであろう。

また、そういった援助方法が具体化することによって国内における移住希望者に一つの目標を与えることになり、啓発にも好影響を及ぼすことにもなるう。

さて、独立に当っては種々の調査、準備が必要であるが、やはり最大の問題は資金の確保ということであろう。独立援助問題を資金の確保と

いう面にのみしぼって、独立希望者が比較的容易に資金を得られるような方策を考えてみたい。

ア．事業団融資制度の確立

技術移住者に対する事業団の工業融資制度を早急に検討して実施する必要がある。

イ．ブラジル政府または金融機関の融資活用等

(ア) 現地で仄聞した話ではあるが、工業機械（旋盤等）を政府から借入れる方法があるとかいう話であった。これは現地で確認することは出来なかったが、もし事実そういう方法があるとすれば独立希望者にとって大いなる福音であるので、一応研究すべき課題と考える。

(イ) 事業団自体の融資では原資に限度があるので何等かの形で現地金融機関から独立希望者が融資を受けられる方法を積極的に検討し、必要あれば事業団がその債務を保証する方法も検討しては如何かと思う。

(ウ) 急速な工業化を進めつつあるブラジルにおいて、工業自営者に対して何等かの保護政策を取りつつあるであろうことは容易に想像出来るので、技術移住者の独立といった面からも、今後、こういった方面の法律等を積極的に研究する必要があるものと思われる。

ウ．拓植基金協会援護資金の利用範囲の拡大

拓植基金協会が農林省の管轄下にある関係上、留守家族が援護資金の現地送金についての融資に関する保証を受けられる者は農業移住者に限られているが、この条件を緩和して工業、または商業移住者についても適用されるように関係筋に働きかける必要があるのではないかと考える。

付 録

調 査 日 程 (昭 和 4 0 年 6 月 ~ 7 月)

月 日	曜日	
6月13日	日	ブエノス・アイレス着 市内見学
14日	月	午前 事業団ブエノス・アイレス支部, 大使館あいさつ 午後 亜拓あいさつ, 支部にて視察日程打合せ
15日	火	市内花市場見学, ウルキッサ移住地視察
16日	水	ジレーラ社, 山田ボタン工場
17日	木	午前 ブエノスアイレス支部 午後 エスコバール花卉園見学
18日	金	午前 資料整理 午後 15時15分 ブエノス・アイレス発 18時30分 ポサードス着
19日	土	午前 9時30分 ポサードス発 9時50分 エンカルナシオン着 エンカルナシオン事業所, 領事館あいさつ 午後 パラグァイ兵庫県人会訪問
20日	日	アルトバラナ移住地視察
21日	月	午前 エンカルナシオン事業所 午後 14時50分 エンカルナシオン発 16時15分 アスンシオン着 アスンシオン支部あいさつ, 視察日程打合せ
22日	火	午前 市内見学, 近郊日本人農家視察 午後 大使館あいさつ
23日	水	午前 10時 アスンシオン発(バス) 16時 イグアス移住地着 イグアス事業所あいさつ
24日	木	イグアス移住地視察

月 日	曜日	
6月 25 日	金	午前 国際大橋「友情の橋」見学 10 時 国際大橋前発 午後 17 時 アスンシオン着 アスンシオン支部
26 日	土	午前 8 時 アスンシオン発 午後 12 時 30 分 サンパウロ着 兵庫県出身コチア青年移住者と座談会
27 日	日	サンパウロ州アチバイア市近郊農家視察 コチア産組アチバイア試験農場見学
28 日	月	午前 サンパウロ支部、総領事館、パウリスタ新聞社、 サンパウロ新聞社、日伯毎日新聞社あいさつ 午後 コチア産業組合本部あいさつ コチア産業組合ジャグァレー倉庫見学
29 日	火	午前 9 時 サンパウロ発 午後 15 時 ミナスジェライス州ヴァルジニャ市着 C.B.C 幹部及技術移住者と懇談(同市宿泊)
30 日	水	午前 伯国三菱重工(C.B.C)工場見学(ヴァルジニャ市) 午後 事業団技術移住センター(サンパウロ市郊外) サドキン電球工場(//)
7月 1 日	木	午前 N.G.K. (モジタスクルーセス市) 午後 豊和工業(//) パペロック製紙会社(サンミゲル・パウリスタ市)
2 日	金	午前 フェイラ見学 午後 サンパウロ州政府移民収容所 児玉機械(サントアンドレー市)

月 日	曜日	
7月 3 日	土	午前 サンパウロ支部資料整理 午後 コチア産組体育場及野外パーティー見学
4 日	日	午前 兵庫県出身技術移住者と懇談 午後 15 時 30 分 サンパウロ発 16 時 30 分 リオデジャネイロ着
5 日	月	午前 リオデジャネイロ支部，大使館あいさつ 午後 石川島ブラジル造船所 夜 兵庫県出身技術移住者 2 名の家庭訪問
6 日	火	新潟プラス K.K. 山県建設採石工場視察
7 日	水	さくら丸出迎え，市内見学
8 日	木	14 時 リオデジャネイロ発 18 時 ブラジリア着
9 日	金	午前 領事館あいさつ 市内見学 午後 13 時 ブラジリア発
10 日	土	午前 2 時 ニューヨーク着 市内見学 午後 13 時 ニューヨーク発
11 日	日	20 時 30 分 東京着

